

大会特別規定

※太ゴシックの文章は、北海道大会のみ適用。

【競技を行うにあたって】

1. 1チーム9名からの参加を認める。
2. 得点差によるコールドゲームは、『開催要項 12. 競技方法(2)』により5回終了以降7点差以上とする。また、試合時間の制限は行わない。
3. 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定する。その際、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。5回終了前に降雨、暗黒及びその他の事情で試合続行不可能となったときは、特別継続試合とする。5回を過ぎ正式試合になって同点のときも特別継続試合として行う。また、雨天順延により、準決勝と決勝を最終日に行うことになった場合、決勝戦の開始時刻は、第3位表彰式後45分を目途とする。ただし、準決勝を2会場で行うときは、他の会場からの移動時間は、これに含まないことを原則とする。
4. 本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、競技委員協議の上、競技委員長の権限により処理する。
5. **天候や気候等によって大会が順延となり、会期中に全国大会の出場校(チーム)を決定することができない場合、組み合わせ対戦校(チーム)同士による抽選(登録選手から代表の9人を選出)で勝敗を決定する。**

【試合開始前】

6. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻60分前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し決定する。
7. 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の40分前まで、第2試合以降は前の試合の4回終了までとする。ただし、第1試合の前に開始式がある場合や、勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、本部で決定し連絡する。監督と主将は打順表を持参し、登録原簿と照合ののち、前の試合の4回終了時に球審立ち会いのもと攻守を決定する。**また、初戦のみ保護者代表者1名も参加する。**
8. シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - (2) 時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員(当該チーム選手)をつけて行うことができる。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習は認める。
 - (5) マウンド付近は使用しない。
 - (6) シートノックを希望しないチームは攻守決定時に本部に伝える。
9. 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。その場合、開始予定時刻より30分以上は早めない。
10. ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備が出来るまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。

【試合中】

11. ベンチ内での指示用メガホン使用は、監督に限る。また、電子機器類の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
12. 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
13. 投手(救援投手を含む)の準備投球数は初回に限り、7球以内(1分を限度)が許される。次回からは、3球以内とする。また正捕手の装具準備時において残り2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。
14. 熱中症予防のため、3回と5回終了時に給水タイムを設ける。また、5回終了時およびタイブレーク方式開始前にグラウンド整備を行う。なお、暑さ指数(WBGT)が31℃に達すると予想される場合については、2回、4回、6回裏終了時に給水タイムを設ける。その場合は4回終了時にグラウンド整備を行う。
15. 熱中症予防のため、守備時間が長引いた場合、イニングの途中であっても給水タイムを設ける。(20分を目安として本部で判断し、打者のプレイ完了後に給水タイムを設ける。)
16. 監督が投手のもとへ行く回数制限について「投手のもとへ行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファウルラインを越えて監督の指示を受けた場合も、監督が投手のところに行く回数に含める。
17. ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「16.」と同じ行為であれば回数に数える。

【その他】

18. テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。
19. 日光がまぶしい場合、サングラスの使用を認める場合がある。
20. DH制は適用しない。
21. **大会に派遣されている競技委員長及び副競技委員長、北海道中学校体育連盟軟式野球専門委員会審判部長は、控え審判員と同じ資格を有するものとする。**

競技上の注意事項

1. 選手の頭髪・身なりなどは中学生らしく、試合中はもちろんのことスポーツマンらしい態度で大会に参加すること。
2. 応援団については、監督が責任をもつ。
3. 応援団は次の事を守って応援すること。
 - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - (2) 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は、座っていることが望ましい。応援の切り替えは3アウト成立時とする。
 - (3) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。**また、学校名の入った横断幕を設置しても良いが、観客の視界を遮らない場所（観客席最後方）とする。**
 - (4) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - (5) 試合を妨害するような応援はしない。
 - (6) メガホンを使用してもよい。
 - (7) 笛(ホイッスル)は使用してもよいが、投手が投球動作に入ると同時に突然使用したり、使用をやめたりするなど投手の投球に影響を与えるような使用は慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に、笛で盛り上げることをしないようにする。
 - (8) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - (9) 許可された場所以外にテントを張ることは禁止する。
- (10) **応援席から投手の球種やコースを伝えることは禁止する。**
- (11) **動画を撮影することは認めるが、その動画をSNS上にあげることは禁止する。**
4. 監督等の服装については、次の通りとする。
 - (1) 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は30番、コーチは29番、28番の背番号をつける。
 - (2) 監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服（白いワイシャツまたはポロシャツが望ましい）に選手と同一の帽子とする。
 - (3) サングラスは使用しない。事情がある場合は大会本部の許可を得る。
5. 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
6. 試合開始・終了時の礼は両チームが同時に行う。また、相手チームと別に審判員に礼をすることはしない。
7. 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
8. 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - (1) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (2) 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
 - (3) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。
 - (4) **打者は、バッターボックス内でサインを確認し、速やかに打撃姿勢をとること。その際、ラインを故意に消さないこと。**
 - (5) **バットの受け渡しは、手渡しで行うこと。打者走者は四死球等のとき、バットを投げずにその場に置くこと。**
9. 各チームの監督は、試合終了後に大会本部に足を運び、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。

北海道中学校軟式野球大会 確認事項

1. ユニフォームの着用について

- (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
- (2) ユニフォームの上着に個人名は入れない。またノースリーブの上着は認めない。
- (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ④ 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ⑤ ハイカットストッキングは禁止する。

公益財団法人 全日本軟式野球連盟規程細則には、「ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、他のものをつけてはならない。」と記されている。本大会では特に規制はしないが、この規定に沿ったものを推奨する。

2. ユニフォーム以外の用具・装具等について

- (1) 用具・装具の使用は、以下に定められたもの以外は、公認野球規則および競技者必携に定められたものを使用しなければならない。また、特に記載のない用具・装具等については原則使用禁止とする。
- (2) 使用を禁止するもの
 - ① リストバンドは使用できない。
 - ② 滑り止めスプレーは使用できない。
 - ③ 走者が出塁時に、ひとまわり大きいサイズの走塁用手袋の使用はできない。
 - ④ マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
 - ⑤ レッグガード・エルボーガード・手甲ガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得る。
- (3) 使用できるが、色等の指定があるもの
 - ① 打者・走者・守備時の野手の手袋の使用を認める。色は白・黒の一色とする。手袋とサポーターの一体型のものの使用も認める。
 - ② ヘルメット、マスクはSGマークのついたもので、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。
 - ③ スパイクのチーム内（指導者も含めて）での甲被カラーは白・黒の一色とし、チーム内での混在を可とする。
 - ④ 木製バットは、黒色・ダークブラウン系、赤褐色系及び淡黄色系とし、木目を目視できるものとする。ただし、拙劣な塗装技術を用いていないものとする。
 - ⑤ アームスリーブは、アンダーシャツと同色のものとする。
- (4) 試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得た場合に使用できるもの。
 - ① 医療目的でのサポーター（手首や指を固定、保護する目的のもの）の使用は認める。ただし、色は白・黒・ベージュの一色のものとする。
 - ② 健康上の理由及び球場の条件によってサングラスの使用は認める。
サングラスを使用する可能性のある時は、試合前（メンバー交換時）に主催者・審判員に申し出て許可を得たものの使用を認めることとする。メガネ枠は黒、紺またはグレーなどとし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。グラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。また、著しく反射するサングラスの使用は認めない。

3. その他の事項

- (1) テントの設置については、スタンド（各ベンチより外野側は設営可）および球場外の指定された場所とし、それ以外へのテントの設営は禁止する。
- (2) 試合前のグラウンドでのウォームアップに関して
 - ① 登録メンバー（選手、監督、コーチ）と補助員3名のみとする。
 - ② ユニフォーム着用者以外のグラウンド内への立ち入りを禁止する。ただし、その日の第1試合チームはチームで統一されたTシャツでもよい（アンダーシャツのみは禁止）が、打順表の提出時には、全員ユニフォームに着替えていること。
 - ③ グラウンドに出る際は、必ず着帽する。
- (3) 補助員の服装は選手と同じユニフォームとするが、準備（用意）できない場合は練習用ユニフォームまたはチームTシャツでもよい。**また、スコアラーの服装は、試合着・練習着・学校ジャージまたは、学校標準服とする。**
- (4) 教員が平服でベンチに入る場合は、緊急時対応（怪我等）以外グラウンドに出ることができない。（ノック等でグラウンドに出る場合はユニフォームを着用する。）
- (5) スタンドでのまとまった応援はベンチよりも外野側で行うこととする。
- (6) ベンチ内での電子機器類（スマートフォンやタブレット等）の使用を禁止する。

4 野球規則、競技者必携に記載があるが、もう一度確認してもらいたいこと

- (1) 7回を完了して同点の場合は、次の方法により勝敗を決定する。
 - ① 延長戦は行わない。
 - ② タイブレイク方式とする。（勝敗が決するまで継続する）

〈タイブレイク方式〉

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、0アウト1、2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、規定によって認められる選手の交代は許される。

- (2) 投手が手首や腕にリストバンド、サポーターなどを使用することは禁止する。テーピングについても投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
- (3) 試合前のグラウンドでのハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティングまでとする。
- (4) 次の試合の先発バッテリーに限り攻守決定後、試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。
- (5) 選手交代の申し出は、監督が行う。**その際、背番号が見えるようにグラウンドコート類は脱ぐ。**
- (6) 投手の投球数は、1日100球、大会期間中350球までとする。（タイブレイク方式も含める。）ただし、試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
※雨天等の順延のためダブルヘッダーとなった場合も、本規定を適用する。
- (7) **監督が1試合に投手のもとへ行く回数は3回以内とする。なお、タイブレイク方式となった場合は、1イニングに1回行くことができる。**
- (8) **捕手または内野手が1試合に投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。なお、タイブレイク方式となった場合は、1イニングに1回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手のもとへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。公認規則5.10(m)(3)「サインの確認」であっても上記の回数を超えてマウンドに行くことはできない。**
- (9) **攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、タイブレイク方式となった場合は、1イニングに1回とする。**
- (10) **守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。**
- (11) **攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。**
- (12) **試合中、次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリ一での軽いキャッチボールを認める。また、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認める。（ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球等は禁止する。）ただし、攻守交代時に限り、ファウルグラウンドで外野の方向へランニングすることを認める。**

(13) 用具・装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。

① 点検内容については、以下の通りとする。

(1) バット

- ① 金属疲労による「ひび」などがないか。
- ② へこみやくぼみ、亀裂はないか。
- ③ 木製バット以外の握りの部分は市販のグリップテープ専用テープで止めてあるか。
- ④ グリップテープが摩耗していたり、グリップテープが剥がれたりしていないか。
- ⑤ エンドテープがはがれていないか。
- ⑥ 金属バットはJ S B B公認のものであるか。
- ⑦ バットの規制がある場合は、規格外のものはないか。

(2) ヘルメット

- ① S Gマークがついているか。
- ② 両側にイヤーフラップがあるか。
- ③ 内側の保護パットがついているか、またパットが固定されているか。
- ④ 亀裂や破損はないか。
- ⑤ チームとして、色やデザインが同一であるか。(表面のつや消し処理されたものの使用を認める。)

(3) 捕手の装具

- ① マスク、レガーズ、プロテクターは、J S B B公認のものであるか。
- ② ヘルメット、マスクは、S Gマークがついているか。(2024年度、マスクについては緩和)
- ③ マスクにスロートガードが装着されているか。ただし、スロートガード一体型のマスクは装着をしなくてよい。
- ④ マスク、レガーズ、プロテクターおよびヘルメットに亀裂や破損はないか。
- ⑤ 捕手はファウルカップを装着しているか。
- ⑥ 予備捕手の装具についても同様であるか。

(4) グラブ

- ① 「綴じ紐」の長さは、親指より長くないか。
- ② 投手のグラブについて
ア、縁取り・縫い糸を除き白色、灰色以外のものであるか。
イ、グラブの色がPANTONEの色基準14番よりも薄い色でないか。
ウ、縁取り、しめひもを除くグラブ本体(捕球面、背面、網「ウェブ」)は1色もしくは2色であるか。また、そのグラブの色と異なった色のものを、グラブにつけていないか。

(5) 手袋

- ① 野球用の手袋であるか。
- ② 色は白・黒の単色であるか。

② 指摘を受けた時に補修することは認める。その場合、補修完了後再度点検を受ける必要がある。

5 大会運営上、チームに徹底してもらいたいこと

- (1) 試合前後に両校が整列して挨拶をする際、両校が同時に礼をあわせてすること。
- (2) 5回終了時及びタイブレーク方式前のグラウンド整備のときは、整備係の危険防止や熱中症予防の観点からベンチ内で待機すること。
- (3) 芝生では、アップシューズを使用すること。またノックを含めてバッティング行為をしないこと。
- (4) 危険防止の観点から捕手は、プロテクター、レガーズ、捕手用ヘルメット、ファウルカップを必ず着用するとともに、投球練習(捕手が座った状態)になったら、マスクを着用すること。シートノックやブルペンではマスク、捕手用ヘルメットは体から離さないようにすること。
- (5) シートノックの際、事故防止のため、球場内でノッカーにボールを渡す選手および補助員はヘルメットを着用すること。また、ボールを転がしたままにせず、ボールケース、かご、バケツ等も地面に置いたままにしないこと。